



水辺だより



1994年12月

勉強会&94忘年会 が盛大に終わりました

12月3日、県民会館小会議室で林和彦さん（新大院生）の「伝統的河川工法」の調査研究の話と、高橋正良さん（㈱ザソウンド）の「ドイツ・ピオトープ事情（河川編）」の報告がありました。集った会員は約20名、スライドを交えてのわかりやすいお話で、茶を飲み、みかんを食べながら和やかな会でした。『勉強会』などと堅苦しい題がつくと、敬遠なさる方もいるでしょうが、決して難しい話にはならない体質の会ですから、会員の皆さんが気楽に顔をだせる催しでありたいと思います。

夕方6時からは会員の星島卓美さんのお店「番小屋」で忘年会。大盛会。

この席で事務局から、'94年度の会計報告と、'95年活動計画案が発表され、その場に居た呑んべえ達約25名によって承認されました。来られなかった方には事後報告の形（別紙参照）になりごめんなさい。提案や希望がありましたら検討しますのでお聞かせください。

水辺ウォッチング『三面川・荒川』がおこなわれました。

11月13日 会員の高橋博愛さん案内で、集落内を流れる前ノ川（朝日村猿沢）を訪ねました。河川改修を行いながらも、今の趣ある景観と川とつながりのある暮しを残そうという住民の意識が盛り上がっているところです。水辺の会として実際の河川の将来像についての提案を行う最初の例になると思われます。

同じ日に関川村の松田繁雄さんたちのカジカ養殖場を見学しました。カジカはハゼのような形で愛敬ある顔立ちの魚です。今年のような猛暑に水温を一定に保つ工夫やエサへの配慮をお聞きして、生き物を育てるのは大変なんだとよく判りました。それと関連して魚を育てていく水への思いはひとかたならぬもので、松田さんは川の環境についても憂慮されているようでした。

新潟の水辺を考える会

〒950-21 新潟市大学南1丁目7821-5
電話 (025) 263-2733

へんなカタログのはなし

石 月 升

ひょんなことから、さるコンクリートの二次製品会社（S社）のカタログ作りを手伝うことになった。

まずは事の始まりの一場面。

S社「コンクリートブロックを使った多自然型川づくりのカタログをつくってほしい」

俺「エーッ……あのねえ、鉄やコンクリートで固めた河川工事の反省から、多自然型川づくりが叫ばれているんだよ。カタログを作ることより、自然にやさしい製品の開発に力をいれてもらいたいと思うんだがねえ」

S社「それもやるが、今は多自然と言わないとブロックも使ってもらえない時代なんだ。

川には どんな植物があり、魚や昆虫はどんなところに棲むかというようなことを中心に作って貰えばいいんだ。金は必要なだけ出す。是非引き受けてほしい」

俺「それにしても、あなたの持参した原案では、多自然型川づくりのイメージがわいてこないな」

S社「これはどんなに変えてもらっても構わない。あなたにまかせるから」

この「あなたにまかせる」の一言。いや、コンサルの社員としては「金は必要^はだけ出す」の誘惑に負けたといったほうが真実か。とにかくこんな次第でカタログ作りが始まった。

そして、次のような構成をきめた。

- ① いろいろな川の表情を写真で見せる（勿論、矢板やコンクリートブロックは写っていない）
- ② 川の生態系の説明をイラストでやる
- ③ 川に成育する植物の写真
- ④ 水生昆虫の写真
- ⑤ 昆虫の写真
- ⑥ 魚、貝、口殻類の写真
- ⑦ 鳥の写真
- ⑧ 夢のある川づくりのイメージ（イラスト……ちょっとだけコンクリートブロックを書き込む）
- ⑨ 多自然型川づくりの要点の説明（イラスト）
- ⑩ 最後の頁に「当社の製品を多自然型川づくりに役立ててください」（文字だけの表現で、製品の紹介はしない）

「鳥と魚の写真は高橋、井上両氏に借りよう（ちょっとだけ借用料を払って）」などの作戦をたてて制作開始となった。

最初の難関は川の写真撮影。1日間で1,500 kmも走って6×6版の重いカメラを担いで川を漕ぐ、木洩れ日が差し込んでシャッターチャンスと思いきや、写生の兄さんが邪魔になって移動をお願いしたり、助手がトンボの写真撮影に夢中になって動かなかったり……あれや

これやで、奥入瀬溪流から荒川まで、東北地方の主要な川を一応撮り終えた。

そして、タイヤ4本を入れ替えた。

次は水性昆虫。これがなかなかの代物で、網で数種を採取して、格好のいい奴を容器に入れて、三脚をセットして、いざシャッターを切ろうとするとムズムズと動き出す。接写レンズのピントの厳しさなどは彼等に通じる筈もない。ようやく写真になったとしても同定がまた厄介で、カゲロウ やカワゲラのある種では、顕微鏡を覗いているうちにストレスが充満して、途中で投げ出したくなったりする。

トンボ、コオイムシ、ミズカマキリ、スジエビ……ご機嫌を取りながら写真にするのは容易なことではない。

とにかく第一段階はクリア。いよいよ多自然型川づくりのイメージ図の作成にかかる。

例えば、ある実在の川をどのように作り変えるかというようなテーマが与えられると、それなりの絵は描けなくはない。が、架空の理想河川を絵に表現しろということになると、いわば河川の技術屋としての総体が紙面上に現れるわけである。絵の才能などとは次元の異なる問題である。「桜の咲く時期にトンボがいるかしら」と評されるような、時間を超越したような原図を描きあげるのに、作業予定時間を大幅に超越することとなった。

いよいよ仕上げの段階に到達したとき、「営業担当の社員会議に図ったら、どうしても当社の製品を入れたイメージ図が欲しい」という意見が出たので、付け加えてほしいとの注文がきた。

当然のごとく「話が違う」と抵抗を試みた。しかし、所詮は発注者対受注者。いくつかの条件を付して承知することとなった。

かくして、川の生物図鑑と呼ぶ方がふさわしいような、変なカタログが誕生した。

制作の過程でこんな事もあった。

水性昆虫を撮影していると、じっと様子を窺っている髭面の男がいた。しばらくして、おそろおそろ近付いてきて「何をしているのか」と尋ねた。「川虫の写真を撮っているんだよ。良かったらファインダーを覗いてみるかね」といったのが失敗だった。以降数十分間、カメラは髭面に占領されてしまった。ようやく目を離して曰く「こんな怪物が川の中にいるんかね」。「この虫の名前は」「どんな場所にいるのか」「どうやって捕るのか」矢継ぎ早の質問せめにあったあげくついには、底生動物採取実地訓練という羽目になった。

おそらく50才に近いであろう髭面の目は、完全に少年の輝きに変わっていた。

この変なカタログによって、S社の製品が売れるか売れないかは別として、カタログを手にした技術者の中から、一人でもこのような「髭面氏」(勿論髭はなくてもいい)が誕生してくれば本望というものである。そして何よりも、S社の社員に理解を深めてもらうことが大事だと思っているのである。

(若干の増刷がありますので、希望者は小生まで御一報ください)

Tel. 263-1133 (株)グリーンシアマ内



極楽トンボ

九寨溝へ向う途中で、チベット密教寺院に立寄りました。町から離れた所にあるそれは、広々とした高地にひそやかに建てられていました。小豆色の僧衣を身につけた若いお坊さん達があちらこちらに見られます。門を入り、鐘やら何やら売ってる小さなお店や、露店の前を冷かし、マニ車の並んでいる回廊を横目で見ながら進んでいくと本堂が見えてきます。日本のお寺と違う色鮮やかな着色が施されている建物に入っていくと、暗い中でお坊さんたちが楽器を鳴らしながらお経をあげています。正面まで進み、見ようみまねで手を合わせ、10元(約120円)を渡すと、首に赤い布をかけてくれました。通路の脇が少し高い台になっていて、そこに座り目を閉じてお経を聞いていると、建物の中に反響する声と楽器の音が、私の体に振動となって伝わってくるようで、なんとも言えず、気持ちよい時間を体験しました。

バスに戻ると、日本人の団体客などめったにこない場所ですから、物珍しさとして少しでもなにか売ってやろうというので、お坊さんの人だかりができています。なんだこりゃという感じで、お坊さんの商売熱心なのに感心しました。

九寨溝周辺は少数民族の地域です。九寨溝は、9つの集落がある場所(寨は集落の意味)という意味で、チベット族の聖地でもあります。現在も先祖からの土地に900人のチベット族の人たちが暮し、260haの土地を耕しています。チベット族の家の前にはお経が書かれている旗がたっています。これは、風にお経を読んでもらうとのことでした。

九寨溝が近くなってくると、新築中の家が目立ち始め、やがて食堂や宿泊場所が増えてきました。これから、この地区を開発しようとしている意向が、その風景に反映されているようでした。九寨溝での宿泊地は九寨溝山荘という所で、山荘というにはあまりにも立派な香港資本のホテルでした。

九寨溝はユネスコの世界遺産条約に指定されている地域で、四川省では有名な観光地です。面積は約1,320km²、標高は2,000m、高山湖が114、大きな滝が4

ヶ所、大きな灘（滝につながっているもの）が2ヶ所あり、清浄な水に特色づけられる自然保護区です。

現在は九寨溝へのアクセスが非常に悪いために、観光客はそれほど多くはありません（14万人／年、海外8,000人／年）。それでも、中国経済が大きく変化している中で、中国の人たちの関心が観光へと向き始め、この地域も何かしら変わっていくであろうことは想像に固くありません。

ホテルで小休憩した後で、バスで九寨溝へと向いました。おもしろいのは、入口で車を丸洗いすることです。悪路を進んできた土ぼこりだらけのバスにホースで勢いよく水をかけ、車体をきれいにします。どうやら義務付けられているようで、これも料金がとられます（成都に戻った時も、車をきれいにしました）。

きれいになったバスで中にはいっていくと湿原がみえてきました。私は、釧路湿原にも尾瀬にも行ったことがありませんが、やわらかい静かな風景をつくりだす湿原の淡い美しさにただただ見とれるばかりでした。バスの中から皆が声をあげています。その中を流れる小川の水の美しさが、九寨溝にきたんだという実感をいだかせてくれました。残念ながらここには停車できませんでしたが、あの小川のほとりをもし歩くことが、それが無理ならあの場所にいることができたのなら、天国にいるような心地がしたことでしょう（ぬかるんで、歩けないと思うけど）。

（つづく）



東地区公民館 主催.

❖❖❖❖ 冬の水鳥ウォッチングのお知らせ. ❖❖

'95年 2月 26日 (日)

つうせんがわ
通船川の
流れだよ

場所は. 新潟市 松崎 県営第2貯木場
& [東新潟]
松園ニ丁目 じゃんさい池.



ウォッチングは
暖かい服装で.

朝8時 (集合)
※2貯木場に

定員は 40名. といど

車でも. バスでも参加できます.



カマメは見たことある? ... たくさん見たいけど... 船にも鳥はいるよ!

野鳥観察を 指導して下さるのは.

水辺の会 会員 高橋正良さん

&

渡辺朝一さん (予定).

二人共. 日本野鳥の会の方でもあります.

しん川
[通船川] ルネッサンス21
の
星高卓美さんから.
情報をいただきました

問い合わせ 東地区公民館 ☎ 241-4119
(来年になってから 問い合わせね)

94年度 会計報告

'93.12.15~'94.11.30のまとめ



〈収入の部〉

項 目	金 額 (円)	備 考
年会費	200,000	70人 6法人
「小川の増自然」等、販売	1,141,410	
7周年イベント収入	180,500	10/1, 参加協力費、書籍売上
水辺ウォッチング 集金分の残余	1,100	
銀行預金の利子	236	
復元シンポ残金	226,535	93年自然環境復元シンポの残金
収入合計	<u>1,749,781</u>	(前年は236,852)

〈支出の部〉

郵送費	141,480	切手、ハガキ、書籍配送
振込手数料	6,870	年会費払込 ¥60×40人 書籍代払込 63件
消耗品・備品	26,289	封筒、PPCラベル用紙 例会のお茶、プリントグッズ用品 紙代、機器使用料
「小川の増自然」作成	896,624	4000部
7周年イベント経費	306,625	講師お礼、会場使用料、パン作成等
会場借用料	7,000	県民会館(12月)
本代支払	23,500	「川とふれあう」
ビデオ購入	13,000	「阿賀に生きる」

支出合計 1,421,388 (前年は284,056)

〈前年度繰越し〉 160,901

《現在高》 ¥ 489,294 (前年は160,901)



新潟の水辺を考える会事務局

会計 川口 米美

'94年11月30日

95年活動予定

情報通信網の体制づくり

・ 会員名簿の編集を行い、より便利な通信体制を考えていきます。またFAXや電子メールによる通信手段も探っていきます。

リバーワークショップの開催

実際の川に対して、会員相互に学習し、問題解決のために提案を行う活動を行います。例えば、朝日村の前ノ川／高橋博愛さん、関川村の水辺／松田繁雄さん、新潟市の通船川／星島卓美さん等の場所で考えます。開催の日時はまだ未定です。

水辺ウォッチング

恒例の水辺ウォッチングは5月、7月、9月。場所、日時は未定です。7月は好評のカヌー体験を兼ねて行い、カヌーに取りつかれてしまった人々は、津川で行われるレガッタ大会に参加する予定です。これからの水辺ウォッチングは会員以外にも広く参加を呼びかけて多くの方に水辺を見てほしいとおもっています。

水辺の99選

会員が推薦する県内各地の水辺を集めて記録し、『水辺の99選』として発表する。実はこれ昨年からやっている企画ですが、なかなか集らない。

地図を貼込むなど面倒で書込みにくいという評もあるようですが、地図を貼ったりする作業は事務局でやってもよいので、概略位置図をさらさらとかきつけるだけでよいです。写真はできるだけ添付願います。

ご自身の想い入れの強さが一番に評価される審査方法（たぶん競争倍率は高くない？）ですので、ぜひ投票してください。

99選発表シンポジウム

上記の99地点の選定地を（新潟日報やマスコミを巻き込んで？）大々的に発表する場。今年のメイン行事となるでしょう。

なぜ100選でなく'99選'かということ、選ばれなかったあなたのところの中

の1ヶ所を加えて、「わたしの水辺100選」にできるからです。

水辺の交流

毎年行っています、長野、富山の水辺研究グループとの交流を行います。また県内の諸団体とも交流の場を持ちたいと考えています。

年間スケジュール

一日時については未定ですので決定しだいお知らせします。

水辺の会主催	その他
1月	
2月	2/22 河川シンポ (六日町)
3月 勉強会	
4月 水辺交流会 (長野、富山)	4/16 内山節 講演会
5月 水辺ウォッチング	
6月	6/8~10 土木史研究発表会 in 長崎
7月 水辺ウォッチング (カヌー体験)	7/29.30 水郷水都会議 in 横浜
8月	8/5.6 福島潟サミット
9月 水辺ウォッチング	
10月 津川のグループ等に水辺の会チームで参加	10/18 河川シンポ (雪国JC) 10/23~27 霞ヶ浦世界湖沼会議 10/23~ 自然環境復元ツアー (スズ、ドイツ)
11月11日 99選発表シンポ	
12月 忘年会	

※※※※※※

ご意見、ご希望をどんどんお寄せください。

※※※※※※

新潟の水辺を考える会

〒950-21 新潟市大学南1丁目7821-5
電話 (025) 263-2733

新潟の水辺を考える会

〒950-21 新潟市大学南1丁目7821-5

電話 (025) 263-2733

会費納入のお知らせ

水辺の会の新年度は12月から始まります。年会費の納入をお願いいたします。

会費は2,000円（法人会員は10,000円）です。

払込み方法は①直接事務局に持ち込む、②郵便局で指定の口座に払込む（同封の振込用紙なら手数料はいりません）の2つの方法があります。

事前に数年分払込まれた方や、7周年記念イベントから入会された方は今回の年会費は不要ですので、振替用紙を同封していません。もし、こちらの手違いがありましたらお知らせください。

口座番号 00640-5-12015
加入者名 新潟の水辺を考える会

名簿編集作業にご協力を

→ 同封のハガキに書いて送ってね



'95年の活動予定にあるように、水辺の会からのお知らせや、会宛に送られてくる数々の情報を、会員の方々に出来るだけ早く、労力も少なく、お知らせするために、情報通信網の体制づくりを考えています。そのために会員名簿のより具体的な作成を行いたいと思いますのでご協力をお願いします。

なおこの情報は事務局サイトで管理し、一般に公開する予定はありません。

電話もFaxも電子メールもって
「はいよってかも。」「興味あるテーマ」に
ついて、おもしろく書いておこう。

編集後記

今年度の最後の号となりました。会費に見合うだけの情報を発信できたかどうか心許ないですが、催しに参加された方には何か残るものがあったことでしょう。

さて私ごとですが、来春から山形県小国町の方へ嫁ぐことになり、退社することになりました。したがって水辺だよりの編集もバトンタッチとなります。パソコン通信を利用して編集を行い、紙面一新となる予定です。

またこれからは、FAXや電子メールの時代がやってくるので、新しい通信方法への模索が始まります。私もブナ林に囲まれた白い森の国から、電子メールで便りを送ります。山村の暮しに慣れたら『森への招待状』を送りますのでぜひ荒川の上流地帯の川を見るついでに遊びにいらしてください。

川口米美